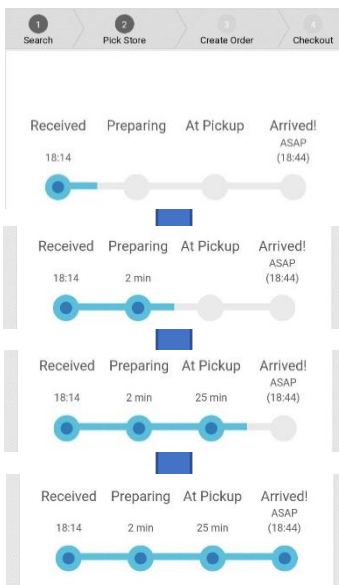
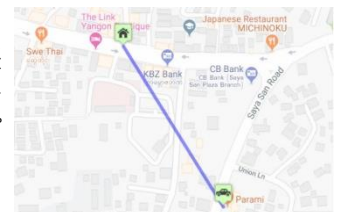


## ヤンゴンのフードデリバリー

みなさんこんにちは。ちょうど北海道は体育祭、運動会の真っ最中でしょうか。こちらはというと、先週位から雨足が強まり始め、3度目の雨季に突入しました。蒸し蒸しした感じはやはり3年経っても慣れませんが、涼しくなったのには助かりました。というのも今年の4月は異常な暑さで、一番温度が高かった日で 44℃を記録。何でもミャンマー観測史上 30 年ぶりの熱波だったそうです。風呂の温度の気温は本当にきつかったですが、いい体験ができました。雨が降るとミャンマーでは「パンパダウ」の花が咲きます。雨が降ると一斉に花を開き、そして1日で散ってしまいます。その儚さは日本の桜のようです。そんなパンパダウの花をミャンマー人はとても愛しています。儚さの中の美しさを感じる心。また 1 つミャンマーと日本の共通点を見つけることができました。



そんな雨季になると、ことさらひどくなるのが「渋滞」です。違法駐車や割り込みなどで元々渋滞はするのですが、みんな濡れたくないのでタクシーを使うし、水たまりはできるし、視界は悪いしで、家の外に出かけるのがおっくうになってしまいます。けれどもちゃんとおなかには減っていく…。そんな我が家の救世主がタイトルにあるデリバリーサービス『YANGON door2door』です。インターネットで注文をすると食べたい店に連絡を入れてくれテイクアウトでオーダーしてくれます。同時に近隣にいる配達員(自転車便！)に連絡。配達員はお店へ行きお金を支払い、料理を持って家まで届けに来てくれ、配達員にお金を支払うというシステムです。注文方法もとても簡単です。Googleなどで検索し、サイトから注文します。注文すると画面に「注文受付」「準備」「品物受取」「到着」と4つのゲージが出てきて 時間と共に自動更新されていきます。



品物受取の後には、GPSを使って現在料理がどこまで来ているかが画面上のマップに表示されます。そして到着予定時間から遅れること5分。無事我が家に注文したピザが届き、家族で舌鼓を打つことができました。

以前お話ししたようにミャンマー人は「徳を積む」ことを善とする人達です。そのため自分が食べ残したものは持ち帰り、他人や動物に与えることが善いこととされています。だからたいいのお店が食べ残しの持ち帰りがOK！英語で「Take away」もしくはミャンマー語で「パッセ(持ち帰ります)」と言えば、無料で持ち帰り用の容器や袋を貰うことができます。そして渋滞がひどいヤンゴン市内でも、車間を通れる自転車であればその影響も少なくなります。人件費も高くないので、多くの配達員を用意し各地に配置しておけば配達時間を短小化できますし、画面上に進行具合やマップを入れることでお客さんの安心感も得られます。そんなことからこのサービス、ヤンゴンで多数の利用者がいるそうです。今回初めて使ってみましたがとてもいい感じだったので、雨が多くなるこの時期ですのでまた使ってみようかと思います。



ミャンマーという国、そしてヤンゴンという都市が抱える背景や状況に目をつけたこの商売。発案者のアイデア力は本当に素晴らしいと思います。私が日本にいる頃から「ニッチな視点」ということが言われていました。しかしその隙間を埋めていくためにはその国のことを本当によく理解し、何が求められているのかということをしちゃんとわかっていくことが肝要だと感じました。孫氏の言葉に「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」とあります。これからのグローバル社会では、子ども達は日本から大きく世界へと羽ばたいていきます。そんな子どもたちに「相手のことを理解する目と心」をしっかりと育てたいと思いました。

それではまた来月、こちらでの生活の様子を報告します。